

76. **Eudarluka australis** Speg. (日本新産)

銹菌類の多くの種類の夏孢子堆に寄生し、全世界に遍く分布している *Darluka filum* 菌の完全時代である。最初南米アルゼンチンで記載されて以来他の地域には未だ記録がない。筆者の一人は屋久島においてハナビスゲ葉上の *Puccinia caricis-filicinae* 菌の夏孢子堆が *Darluka filum* 菌にはなはだしく侵されたものを採集し、研究室に持ち帰って観察を續けたところ、夏孢子堆の崩壊と相まって完全時代の子座および子囊殻が順次形成されるのを知った。子囊殻が完熟するところには、最初見られた多数の夏孢子堆はほとんど跡形もなく、この状態からだけでは本菌が重複寄生菌であることを知るのは困難であろう。

77. **Mycosphaerella lysimachiicola** Hino et Katumoto (新種)

ナガエコナスビの葉が褐色あるいは赤褐色に変じて、葉表に黒色細点を密布する。子囊殻、子囊胞子ともに最も小形の種類に属する。

78. **Leptosphaerulina arachidicola** Yen, Chen et Huang (日本新産)

ラツカセイ葉上に褐色大形の病斑を形成し、病斑上に子囊殻を散生する。子囊胞子は3個の横隔膜および2個の縦隔膜を有するものが最も多い。台湾および北米ジョージア州に分布している。

□唐進、汪發績：中国植物誌 第11巻 莎草科 I 261 pp, 図 120 1961. 科学出版社, 4.85 元。カヤツリグサ科の5つの Tribe, Scirpeae, Rhynchosporae, Cyperae, Hypolytreae, Sclerieae, 27 属 238 種をまとめている。その中で15種以上ある属は, *Scirpus* (37 種), *Eleocharis* (*Heleocharis* 29 種), *Fimbristylis* (47 種), *Cyperus* (36 種), *Scleria* (16 種) である。いづれも解剖図なり全植物の図がのせてあり, 検索, 記載ももれなくえられているので使いやすい。新しい Taxa のラテン記載は, 文末に附録としてついている。変種, Section や Series はタイプを指定していないが, これら命名上の問題は同じ著者が, 植物学報 10 (2): 171-173, 1962 で増訂している。可成り文献の見落としや, 訂正する必要のある学名が目立つが一応中国産のものが分るので有難い。索引, 分類表, 中国名もつけてある。 (許 建昌)

□Matthews, J, R: **Origin and distribution of the British flora** 173pp., 5 tabs., 6 maps. Hutchinson's University Library 1955 年初版。12s 6d. 著者はスコットランドのアバディーン大学の教授。少し古い出版であるが, 主として氷河時代以来の英国フロラの変遷のあとを欧州大陸のそれと関係づけながらまとめた小好著。巻末に要素別の植物のリストおよび参考文献がついている。 (津山 尚)